

かけはし

青の3組
～秋のダイナミックワールド号～

「秋のダイナミックワールド」において、青の3組で展開されている遊び、その遊びが始まったなどご紹介させていただきます。各クラスの「かけはし」は、本園 Web サイト「園からのお便り」のページにも掲載する予定です。よろしければ、ぜひ、他クラスの遊びの様子もご覧ください。

たのしい音楽会で発表するオペレッタ『11 ぴきのネコ』の歌をうたいすめながら、その絵本を、いくつもみんなで読んでいきました。すると、数名の子どもたちが身近な素材を使って耳やしっぽをつくり、ねこになりきったり、お話のなかに出てくる魚をつくったりして遊び始めました。さまざまな物語に触れるたびに、『11 ぴきのねこ』のお話を大好きになっていったようでした。すると、ある子の「青の3組をねこたちが住む世界にしよう」という声をきっかけに、『11 ぴきのねこ』の世界が、遊びのなかに広がっていきました。

★ にゃんにゃん相撲 ★

さまざまな素材を使って、トントン相撲をしていったことから生まれた遊び。



空き箱やトイレットペーパーの芯、紙コップなどを使ってトントン相撲をしてみると、おもしろい動きになることを発見。他にもさまざまな素材で試しました。その後、「ねこの相撲にしよう」と、ねこをつくり始めました。

つくったねこが相撲をとれるような、大きな土俵をつくることに。協力しながら段ボールをつなぎ合わせ、つくりすすめるうちに『11 ぴきのねこ』に出てくる、大きな魚を捕まえるシーンを再現したいという思いが生まれ、魚もつくりだしました。



ねこが近づかない！
どうしたらいいんだろう…？

実際に、つくったねこ魚でトントン相撲をしてみると、思ったように動きません。どうしたらねこが近づいて相撲をとれるようになるのか、試行錯誤が続いています。

★ 11 ぴきのねこのコロッケ屋さん ～スペシャルじゃがいもを探そう！～ ★

『11 ぴきのねことあほうどり』の話に出てくる「コロッケの店」から生まれた遊び。



「みんなでコロッケ屋さんをしたい！」と、お店づくりが始まりました。コロッケはじゃがいもを使った料理のため、1学期にクラスみんなでつくったじゃがいもを遊びに使おうという声があがりました。

コロッケ屋さんの隣にじゃがいも畑をつくることになりました。「じゃがいもは土に埋まっているよね！」と、紙を破いて土をつくり始めた子どもたち。



紙をたくさん破いて土をつくりだめしていくと、じゃがいもを土の中から見つける遊びに発展。遊びをより楽しくするために、金色のスペシャルじゃがいもをつくるというアイデアも出て、盛り上がっています。

★ 魚釣りゲーム ★

ねこたちが大好きな魚をつくって遊んでいた子どもたち。ある子が「この魚を使って、魚釣りゲームをしようよ！」と、釣り竿をつくり始めたことがきっかけとなり生まれた遊び。



「11 ぴきのねこたちがお腹いっぱいになるように」と、みんなでたくさんの魚をつくりました。



「魚は水の中にいるよね！」と、湖をつくり始めることに。水を再現するために、ビニールの梱包材を油性ペンで塗っていきました。



磁石で釣れるように、魚にクリップをつけたよ！

新聞紙でつくった石を周りに並べると、湖の出来上がり！！磁石の力で魚が釣れるように、釣り竿もつくりました。

★ “ウヒアハ”が入った樽を転がそう ★

『11 ぴきのねこ ふくろのなか』の話に出てくる“ウヒアハ”という怪物を、ねこたちが倒すシーンを気に入った子どもたち。「自分たちもねこたちのように“ウヒアハ”と戦いたい！」という思いから生まれた遊び。



綿の代わりに、紙を詰めてみようよ！

“ウヒアハ”をどうやってつくるか、悩んでいた子どもたち。ぬいぐるみからヒントを得て、袋に紙を詰めてつくることにしました。



足はこの辺りにつけようかな？

セロハンテープを使ってとめながら、袋の形を整え、足やしっぽをつくりました。パーツを合わせていくと、“ウヒアハ”のお尻ができていきました。



物語と同じように“ウヒアハ”が入った樽を転がすため、坂道をつくり始めました。長い坂道にするために、段ボール箱をつなげて作成中です。

★ “ジャブ”に11 ぴきのねこを乗せよう！ ★

紙コップやトイレットペーパーの芯を積んで遊んでいたことから生まれた遊び。『11 ぴきのねこ どんどこ』の話に出てくる、ねこたちが“ジャブ”という恐竜に乗るシーンを再現しました。



“ジャブ”に乗せたら楽しそう！

トイレットペーパーの芯を積んで遊んでいると、絵本に出てくるシーンを連想した子どもたち。



「“ジャブ”に乗せられるように、ねこをつくろうよ！」と、トイレットペーパーの芯を使って、ねこをつくりだしました。



少し難しくなるようにしようよ！

ねこたちを乗せる“ジャブ”づくりも始まりました。より遊びが楽しくなるよう、足をグラグラさせたり、ねこの重さを調節したりして工夫しています。